令和6～10年度
「原子力規制人材育成事業」

放射線リスクをマルチスケールで判断できる人材養成プログラム

筑波大学
医学医療系応用医学物理学グループ
事業責任者 磯 辺 智 範

tiso@md.tsukuba.ac.jp

SCALES

本事業は、原子力規制庁・令和8年度原子力規制人材育成等推進事業費補助金（原子力規制人材育成事業）の補助を受けたものである。

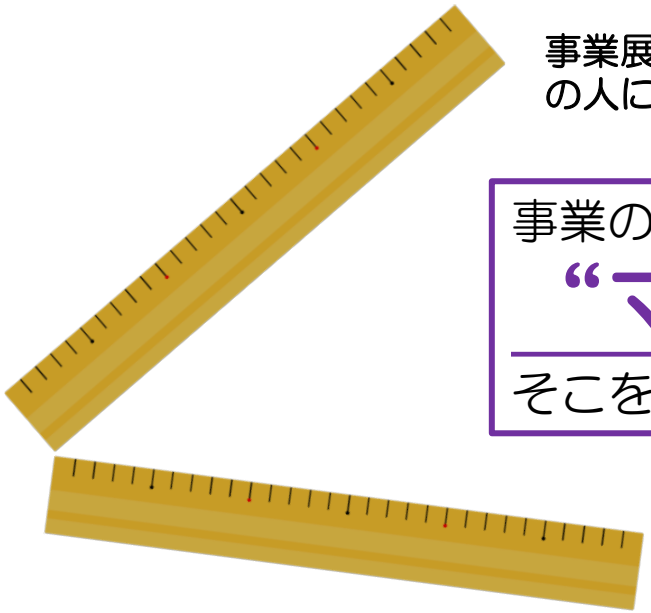
事業名

放射線リスクをマルチスケールで判断できる人材養成プログラム

Radiation Safety and Comprehensive Assessment of Risk Professional Education Sustainable Program: SCALES

放射線安全およびリスクの包括的評価に関する専門教育持続可能プログラム

“ SCALES ”（スケールズ）



事業展開する際に略称があると、便利、広く世間の人に知っていただけるので、略称を-----

事業のキモは

“マルチスケール”

そこを意識しました！

ロゴも。

SCALES

放射線リスクをマルチスケールで判断できる人材養成プログラム

筑波大学 University of Tsukuba

課題

- 放射線・放射能に対する理解不足
- 大きな社会問題：「健康影響に対する誤解」「環境への影響に対する偏見」「食品の風評被害」「放射線を使った検査や治療の拒否」などの事例が多数発生
- リスクの相場観を持ち合わせ、放射線を含めたリスク全体を俯瞰的にとらえることができ、放射線に関する社会不安を払拭できる説明力を有する人材の養成が必要

目的

リスクの相場観を持ち合わせ、放射線を含めたリスク全体を俯瞰的にとらえることができ、個人・集団・社会の不安と疑問に寄り添いながらエビデンスに基づいて放射線のリスクを判断・説明できる人材を養成するプログラムの構築と運用

マルチスケール

放射線リスク スケール：ミクロ → マクロ → グローバル

説明力スケール：個人のリスコミ → 集団のリスコミ → 社会のリスコミ

DNAレベルでのリスク ＜ ヒトのリスク ＜ 社会のリスク ＜ 地球規模のリスク

方法

(1) ベーシックプログラム

講義（eラーニング）

50コンテンツ
- 放射線の基礎・放射線災害のいろは
- リスクマネジメント
- リスクコミュニケーション

etc…

実習・演習

6項目
- 避難退域時検査を学ぶ
- 原子力災害医療 机上演習
- 医療統計学実習

etc…

試験問題プール

200問
- 基本　発展　各100問

ツールジュークボックス（tool juke box:TJB）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50

1	2	3	4	5	6	

基	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
発	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100

適切プログラムの構築
（ニーズに合わせた無償サポート）

- 適宜ピックアップ
- 任意にカスタマイズ

大学（院）A

学部で放射線を学んだ学生は
→ 発展の内容を多く履修

10	18	24	27	37	45	48	50

1	2	4	7	8	9	発展60

大学（院）B

学部で放射線を学んでいない学生
→ 基礎の内容を多く履修

1	2	3	4	5	7	8	10

15	18	19	25	2	3	基本10

(2) リスクコミュニケーター養成個別プログラム

①“リスクを読み解く”力

【フィールドワーク】
- 福島県川又町、北海道、東京都小笠原村での3つのコース
- 環境放射線測定・評価, 住民被ばく管理

【論文読解トレーニング】
- 5つの放射線科学に関する重要論文のレポート作成
- 要旨、論文から得られたエビデンスの具体的な活用法の提案、課題抽出→解決法の提案



②“人の心を知る”力

- 人の心を知り、寄り添える力を養う（臨床心理学）
- 対個人、対集団、あるいは対社会といったあらゆる状況において人と人を結ぶ心のメカニズムを学ぶ（社会心理学）
- 子どもから大人まで、年齢による考え方の違いを理解してコミュニケーションを実践する（発達心理学）
- 医療行為に関わるアセスメントや医療にかかわる人（患者、家族、スタッフ等）をサポートする力（医療心理学）

チュートリアル、ロールプレイ、グループワークを通じて心理学のスキル習得

③“情報を正しく伝える”力

【プレゼンテーション寺子屋】
- コース1「実践！日本語プレゼンテーション」
→ グループワークでプレゼン技能習得
- コース2「実践！英語プレゼンテーション」
→ 海外への情報発信を想定した



成果

“放射線リスクスケール”と“説明力スケール”を合わせ持った「マルチスケール」により、原子力に関連する諸問題に対応・活躍できるリスクコミュニケーターの養成が可能となり、、放射線に対する理解不足から生じている社会全体の放射線に対する偏見や不安の解消を加速させることができる。

福島原発事故以降、放射線の理解不足を背景に様々な社会問題が発生。

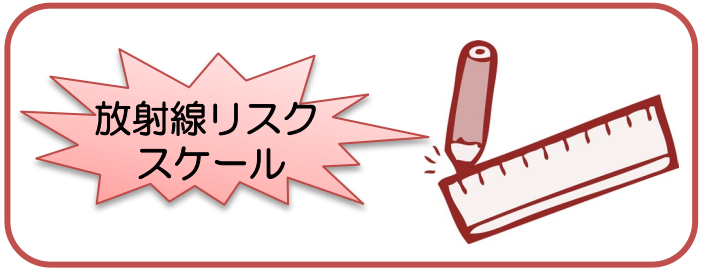
「健康影響に対する誤解」
「食品の風評被害」
「放射線を使った検査や治療の拒否」
など



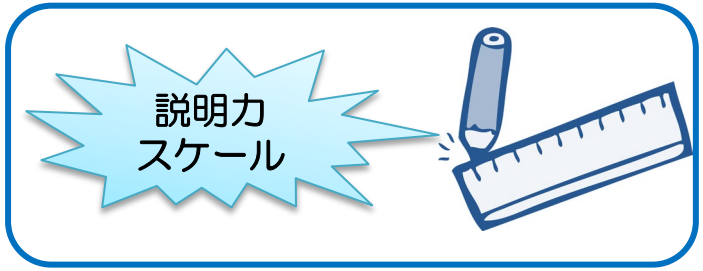
大きな社会問題

この問題の解決のため-----、

<u>リスクを的確に判断</u>



<u>リスクを正しく説明</u>





2つのスケール（スキル）、
「マルチスケール」を備えたリスクコミュニケーターを育成

放射線リスクをマルチスケールで判断できる人材養成プログラム

筑波大学 University of Tsukuba

課題

- 放射線・放射能に対する理解不足
- 大きな社会問題：「健康影響に対する誤解」「環境への影響に対する偏見」「食品の風評被害」「放射線を使った検査や治療の拒否」などの事例が多数発生
- リスクの相場観を持ち合わせ、放射線を含めたリスク全体を俯瞰的にとらえることができ、放射線に関する社会不安を払拭できる説明力を有する人材の養成が必要

目的

リスクの相場観を持ち合わせ、放射線を含めたリスク全体を俯瞰的にとらえることができ、個人・集団・社会の不安と疑問に寄り添いながらエビデンスに基づいて放射線のリスクを判断・説明できる人材を養成するプログラムの構築と運用

マルチスケール

放射線リスク スケール：ミクロ → マクロ → グローバル

説明力スケール：個人のリスコミ → 集団のリスコミ → 社会のリスコミ

DNAレベルでのリスク ＜ ヒトのリスク ＜ 社会のリスク ＜ 地球規模のリスク

方法

(1) ベーシックプログラム

講義（eラーニング）

50コンテンツ
- 放射線の基礎・放射線災害のいろは
- リスクマネジメント
- リスクコミュニケーション

etc…

実習・演習

6項目
- 避難退域時検査を学ぶ
- 原子力災害医療 机上演習
- 医療統計学実習

etc…

試験問題プール

200問
- 基本　発展　各100問

ツールジュークボックス（tool juke box:TJB）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50

1	2	3	4	5	6	

基	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
発	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100

適切プログラムの構築
（ニーズに合わせた無償サポート）

- 適宜ピックアップ
- 任意にカスタマイズ

大学（院）A

学部で放射線を学んだ学生は
→ 発展の内容を多く履修

10	18	24	27	37	45	48	50

1	2	4	7	8	9	発展60

大学（院）B

学部で放射線を学んでいない学生
→ 基礎の内容を多く履修

1	2	3	4	5	7	8	10

15	18	19	25	2	3	基本10

(2) リスクコミュニケーター養成個別プログラム

①“リスクを読み解く”力

【フィールドワーク】
- 福島県川又町、北海道、東京都小笠原村での3つのコース
- 環境放射線測定・評価, 住民被ばく管理

【論文読解トレーニング】
- 5つの放射線科学に関する重要論文のレポート作成
- 要旨、論文から得られたエビデンスの具体的な活用法の提案、課題抽出→解決法の提案



②“人の心を知る”力

- 人の心を知り、寄り添える力を養う（臨床心理学）
- 対個人、対集団、あるいは対社会といったあらゆる状況において人と人を結ぶ心のメカニズムを学ぶ（社会心理学）
- 子どもから大人まで、年齢による考え方の違いを理解してコミュニケーションを実践する（発達心理学）
- 医療行為に関わるアセスメントや医療にかかわる人（患者、家族、スタッフ等）をサポートする力（医療心理学）

チュートリアル、ロールプレイ、グループワークを通じて心理学のスキル習得

③“情報を正しく伝える”力

【プレゼンテーション寺子屋】
- コース1「実践！日本語プレゼンテーション」
→ グループワークでプレゼン技能習得
- コース2「実践！英語プレゼンテーション」
→ 海外への情報発信を想定した



成果

“放射線リスクスケール”と“説明力スケール”を合わせ持った「マルチスケール」により、原子力に関連する諸問題に対応・活躍できるリスクコミュニケーターの養成が可能となり、、放射線に対する理解不足から生じている社会全体の放射線に対する偏見や不安の解消を加速させることができる。

2つのプログラムで

マルチスケール

放射線リスクスケール　ミクロ　マクロ　グローバル

DNA レベルでのリスク < ヒトのリスク < 社会のリスク < 地球規模のリスク

説明力スケール
- 個人のリスコミ
- 集団のリスコミ
- 社会のリスコミ

(1)ベーシックプログラム

- ☑ 講義(eラーニング)
- ☑ 実習・演習
- ☑ 試験問題プール

ツールジュークボックス
(Tool Juke Box:TJB)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
	1	2	3	4	5	6				
基	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
発	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100

適切プログラムの構築

☑ 適宜ピックアップ
☑ 任意にカスタマイズ

大学(院)A
学部で放射線を学んだ学生は
→ 発展の内容を多く履修

10	18	24	27	37	45	48	50
1	2	3	4	5	6	発展60	

大学(院)B
学部で放射線を学んでいない学生
→ 基礎の内容を多く履修

1	2	3	4	5	7	8	10
15	18	19	25	2	3	基本10	

(2)リスクコミュニケーター養成プログラム

①“リスクを読み解く”力
専門機関の特性を活かしたユニークなフィールドワークを通して、放射線リスクを正しく理解するスキルを習得！



②“人の心を知る”力
心理学の専門家による講義・演習を通して、相手の立場に寄り添いながら放射線リスクを正しく説明できるコミュニケーションスキルを習得！

③“情報を正しく伝える”力
経験豊富な講師の指導の下、実践的な演習を通して、プレゼンテーションスキルを習得！

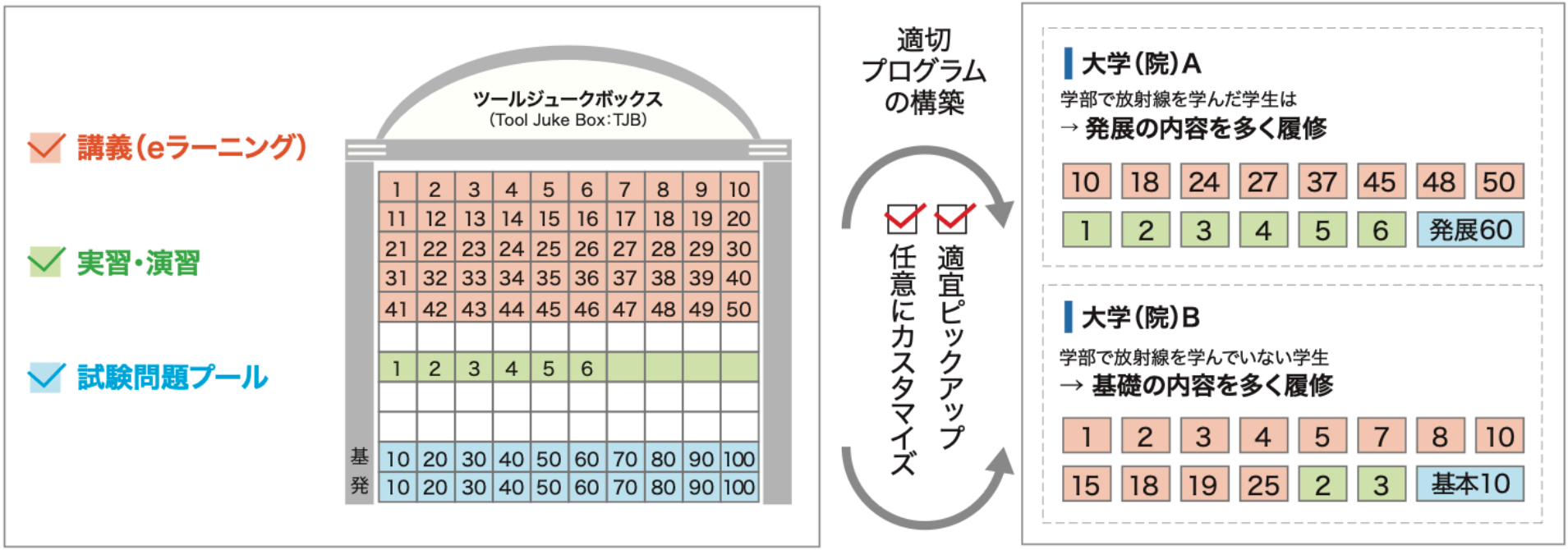
（1）ベーシックプログラム

- 大学院（医学の中のプログラム）で本事業を運営していく側面から、育成するのは主に医学（医学物理）分野の人材である。ただし、本大学院コースには物理工学系（エネルギー系）の出身者や生物系の出身者等バラバラ。
- 社会人（事務職を含む多職種）にも門戸を広げている。



- 受講者は、多種多様なバックグラウンドを持つため、学ぶべき内容やレベルはバラバラ。
- 個人のレベル・ニーズに合わせたコンテンツを提供する必要がある。

ツールジュークボックス（TJB）



- 受講者のニーズ・レベルに合わせてコンテンツをピックアップし、科目を立てる。
- 1人1人に合わせたオーダーメイド型の教育プログラムを構築できる。

放射線リスクを的確に判断する力（放射線リスクスケール）を養う

eラーニングシステムの画面



ビジュアルと使いやすさを意識

- 12単元（カテゴリ）
- 130以上の講義を収録

単　元

- 放射線科学
- 原理力安全管理学
- 放射線災害医学
- 原子力災害環境影響評価
- リスクコミュニケーション
- ---------
- ---------

関連分野を幅広くカバー

今後も随時追加予定

多種多様なコンテンツ

1. 放射線科学

コース　設定　参加者　評定　レポート　さらに

- 掲示板　すべてを展開する
- 放射線について知ろう
- 今日からはじめる放射線健康リスク科学
- 放射線物理概論
- 放射線による人体への影響
- 放射線計測学概論

2. 放射線管理

コース　設定　参加者　評定　レポート　さらに

- 掲示板　すべてを折りたたむ
  - アナウンスメント
- 線量当量の定義と意味
- CT領域における線量測定の実際
- α線の計測と医学利用
- 汎用モンテカルロコードを用いた放射線解析
- モンテカルロ解析の実践と応用
- 放射線計測の基礎～安全と応用のための第一歩～
- 放射線管理の信頼性を支える線量計の校正と運用

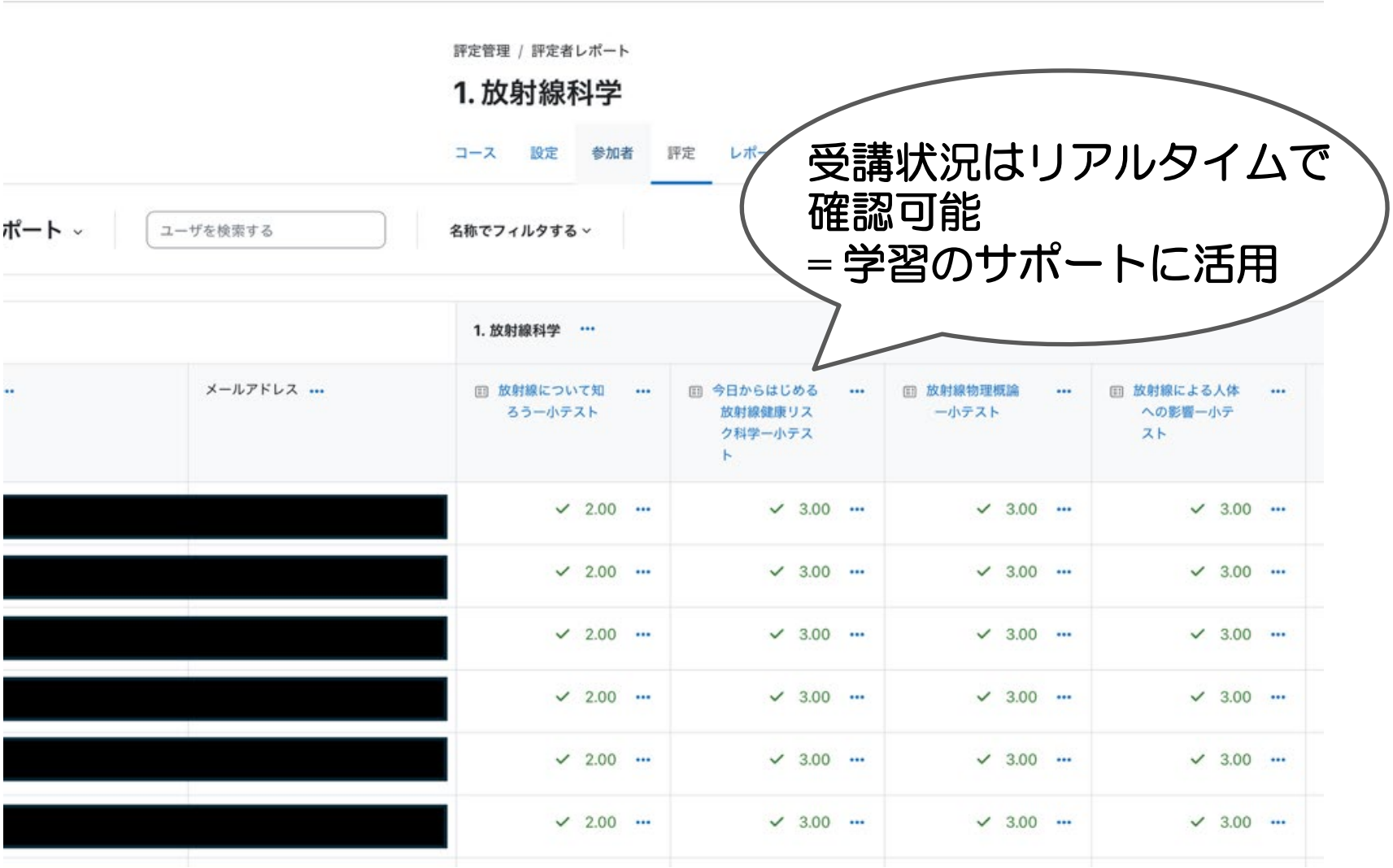
8. 放射線健康リスク科学（医療）

コース　設定　参加者　評定　レポート　さらに

- 掲示板　すべてを展開する
- 放射線の医学利用（概要）
- CT検査における被ばくと患者説明
- 各種放射線診断装置の被ばく
- 放射線の医学利用（核医学）
- PETの撮像原理
- PET検査の概要
- 加速器の利用 -医療を中心に-
- 切らずに治すがん治療
- 医療被ばくと最適化
- 放射線リスクコミュニケーション1
- 放射線リスクコミュニケーション2
- リスクの考え方
- 被ばく相談に活かすリスクコミュニケーションの基礎知識
- 高度医療分野におけるリスクマネジメント

9. 放射線健康リスク科学（原子力災害）

学習サポートも考慮したシステム



2つのプログラムで

マルチスケール

放射線リスクスケール　ミクロ　マクロ　グローバル

DNA レベルでのリスク < ヒトのリスク < 社会のリスク < 地球規模のリスク

説明力スケール
- 個人のリスコミ
- 集団のリスコミ
- 社会のリスコミ

(1)ベーシックプログラム

- 講義(eラーニング)
- 実習・演習
- 試験問題プール

ツールジュークボックス
(Tool Juke Box:TJB)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
	1	2	3	4	5	6				
基	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
発	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100

適切プログラムの構築

☑ 適宜ピックアップ
☑ 任意にカスタマイズ

大学(院)A
学部で放射線を学んだ学生は
→ 発展の内容を多く履修

10	18	24	27	37	45	48	50
1	2	3	4	5	6	発展60	

大学(院)B
学部で放射線を学んでいない学生
→ 基礎の内容を多く履修

1	2	3	4	5	7	8	10
15	18	19	25	2	3	基本10	

(2)リスクコミュニケーター養成プログラム

①“リスクを読み解く”力
専門機関の特性を活かしたユニークなフィールドワークを通して、放射線リスクを正しく理解するスキルを習得！

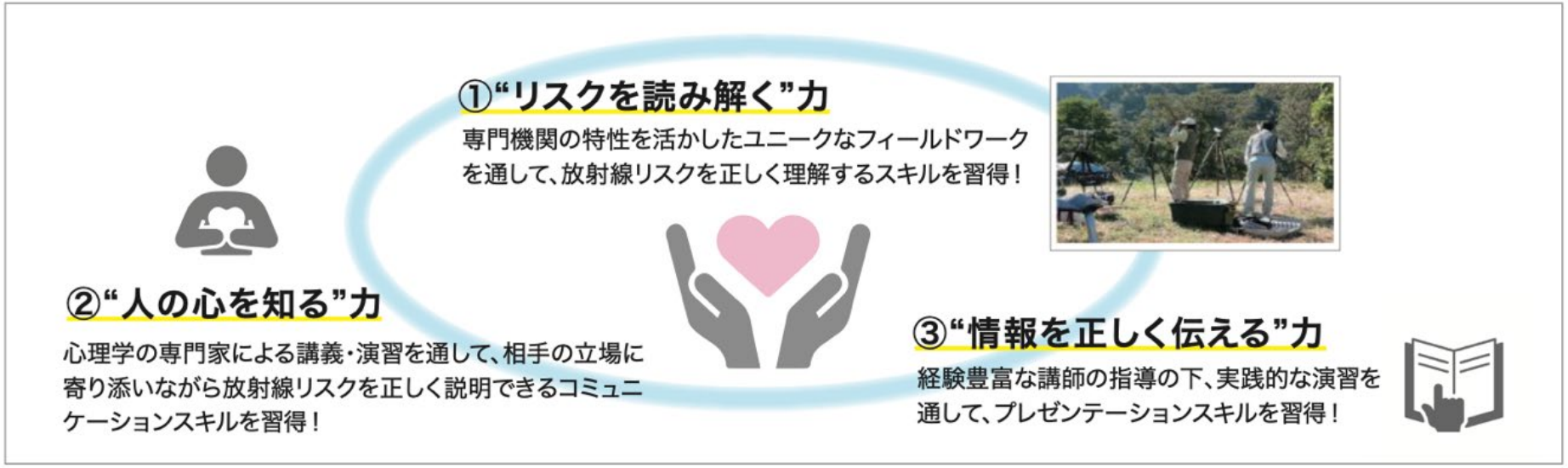


②“人の心を知る”力
心理学の専門家による講義・演習を通して、相手の立場に寄り添いながら放射線リスクを正しく説明できるコミュニケーションスキルを習得！

③“情報を正しく伝える”力
経験豊富な講師の指導の下、実践的な演習を通して、プレゼンテーションスキルを習得！

概　要

- リスクコミュニケーションに必要不可欠となる三大要素
  - ①　“リスクを読み解く”力（インプット）
  - ②　“情報を正しく伝える”力（アウトプット）
  - ③　“人の心を知る”力（リスコミ心理学）



- 実践（演習・実習）を通して放射線リスクを正しく説明する力（説明力スケール）を養う。

① リスクを読み解く力：福島フィールドワーク （8/31～9/2 実施）

□ 「放射線・アイソトープ地球システム研究センター」との連携

CRiES
Center for Research in Radiation, Isotopes, and Earth System Sciences
放射線・アイソトープ地球システム研究センター

□ 環境放射能測定：質の高いデータを収集 & 分析するスキルを養う

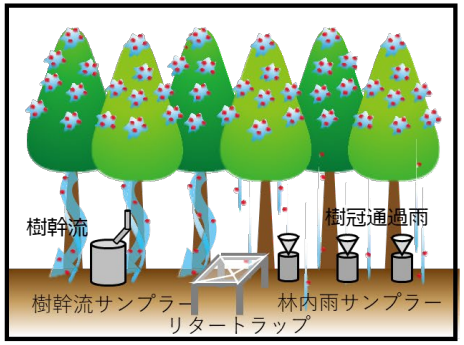


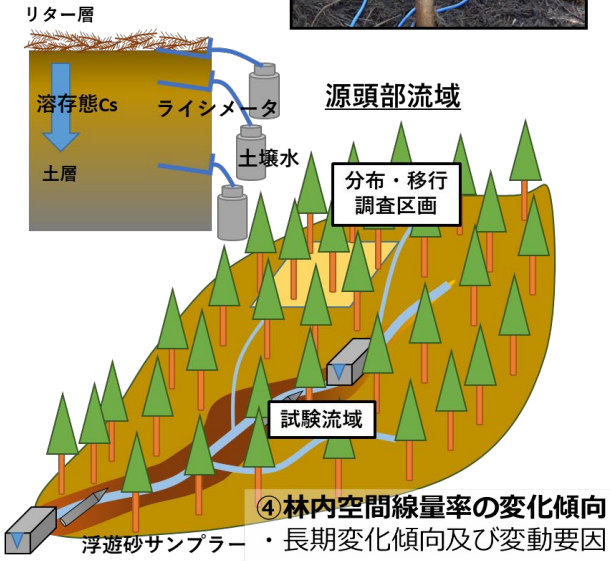
観測項目

①森林樹冠から林床への放射性セシウムの移行状況
- 森林樹冠（枝葉）のセシウム濃度測定
- 林内雨、樹幹流、リターフォールのセシウム濃度測定

②林床土壌中の放射性セシウム深度分布
- 土壌中の放射性セシウム深度分布及び溶存態Csの測定







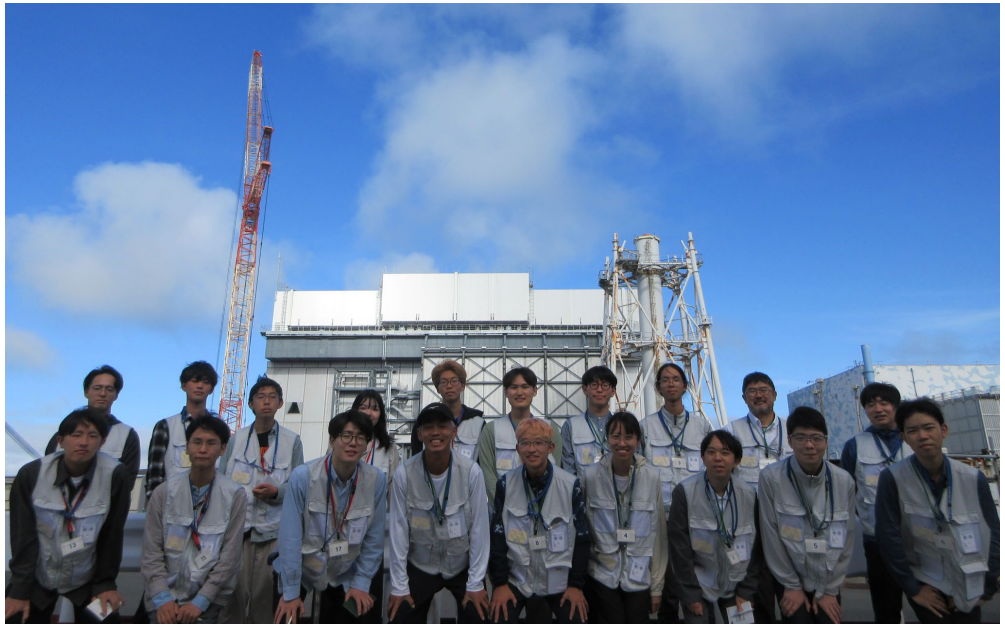
③森林流域からの放射性セシウムの流出メカニズム
- 河川水中の懸濁態・溶存態Cs濃度及び渓流を通じた移行フラックス観測
- 放射性Csの流出経路解明

④林内空間線量率の変化傾向
- 長期変化傾向及び変動要因



- 震災遺構請戸小学校 & 福島第一原子力発電所見学：震災および福島原子力発電所事故の実態と現状を認識する。





（R8 8/31 福島第一原子力発電所 写真提供：東京電力）

R8年度 参加者：21名

◘ 参加者からの声 ～実習後アンケートからの抜粋～

Q1 実習前と比較して「原子力・放射線分野」への興味・関心の程度は変化したか？

- 76.9%の学生が「実習前よりも興味・関心が高まった」と回答
- 残りの23.1%の学生も「実習前と変わらない（実習前から興味・関心が高い」と回答しており、「実習前と変わらない（興味・関心は薄い）」「実習前よりも興味・関心が薄まった」と回答する学生はいなかった。

Q2 Q1の理由について

- 実際に発生した災害、事故であることを改めて実感した。
- 今も続く廃炉に向けての作業・汚染物質の処理などを目の当たりにして他人事ではないと改めて感じることができた。
- 現場を実際に見学することで、講義等での紙面上での知識の輪郭がはっきりし、より深い理解を得られた。

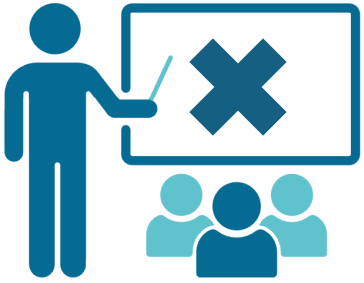
Q3 実習前と比較して「原子力・放射線分野」への認識・意識はどう変化したか？

- 理学の視点だけでなく、文化や社会との関係を強く意識するようになった。
- 自分が意識していた以上に一般の人々の不安が高いことを実感した。
- 姿形の見えない脅威に対して科学的な正しい知識を広く浸透させることの難しさを深く認識するようになった。

② 情報を正しく伝える力：プレゼンテーション演習 （10/17 実施）

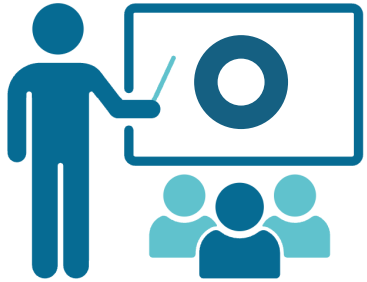
- 情報を正確にわかりやすく伝達できるプレゼンテーションスキルを養う。

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4
わかりにくいプレゼン実演	わかりにくい要因分析	スライド再構成 & 発表	わかりやすいプレゼン実演
教員があえて「わかりにくいプレゼン」を実施	わかりにくさの要因をグループで討論	ポイントを押さえて、わかりやすくリメイクしたプレゼンを発表	同じテーマの「お手本プレゼン」を教員が実演









R8年度 参加者：8名





わかりにくいプレゼンの実演
わかりにくさの要因分析



スライド再構成 & 発表



教員による「お手本プレゼン」& まとめ

◘ 参加者からの声 ～実習後アンケートからの抜粋～

Q1 実習前と比較して「放射線に関する情報を正しく、分かりやすく伝えること」に対する認識・意識はどのように変化したか？

- わかりやすく伝えることが正しく伝わることではないということを考える良い機会になった。
- 専門家の端くれとして、伝えることを念頭においた理解を意識しようと思った。
- 必要な情報をわかりやすい順番で伝えることを意識するようになった。

Q2 実習全体の感想

- このような実践的な学習は普段することができないため、とてもいい機会になった。
- プレゼンテーションについて、面白いテーマと学びのある構成でとてもよかった。
- 一般の方へ放射線を正しく説明するための説明は難しいことを実感した。状況に応じて何を説明するか、事前に整理することが大切だと思った。

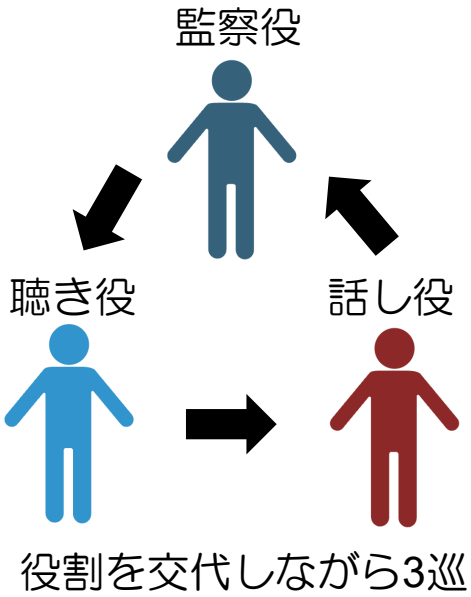
③ 人の心を知る力：心理学実習

（R9 1/23 実施予定）

- 「働く人への心理支援開発研究センター（人間系心理学域）」との連携

最先端の「知」を、最前線に。
働く人への心理支援
開発研究センター
[T-Oneラボ]

- ロールプレイ：ラポール（信頼性）の形成方法とリスクコミュニケーションスキルを養う



役割を交代しながら3巡



ロールプレイ

積極的傾聴態度尺度を用いて「傾聴の態度」と「聴き方」の力量を評価

▼

結果のフィードバックにより傾聴のスキル向上を図る

SCALESにおけるプログラムの特色

特色-1：総合大学の強みを活かした連携

筑波大学 医学医療系
陽子線医学利用研究センター

筑波大学 人間系
働く人への心理支援
開発研究センター
最先端の「知」を、最前線に。
働く人への心理支援
開発研究センター
[T-Oneラボ]

筑波大学 生命環境系
放射線・アイソトープ
地球システム研究センター
CRiES
Center for Research in Radiation, Isotopes, and Earth System Sciences
放射線・アイソトープ地球システム研究センター

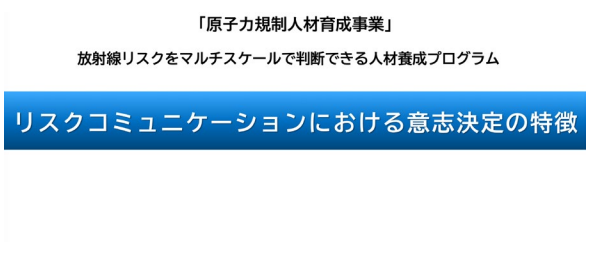
+ 学外協力機関・研究者

ARPHRIN
東京都立大学
「国際原子力規制を鑑みた高度
放射線防護人材育成プログラム」

◘ ユニークで多種多様なeラーニングコンテンツ







◘ 実践的で質の高い実習・演習

補足、連携という意味では -----。

原子力規制庁からの講師派遣

大村 哲臣 先生

- 原子炉の基本構造と安全対策
- 原子炉及び廃棄物の安全と規制

山田 知穂 先生

- 原子力規制の安全法規

もう1つ -----。

インターンシップ：原子力規制委員会職場体験プログラム

実習先：

- 長官官房技術基盤課
- 長官官房放射線・廃棄物研究部門
- 長官官房放射線規制部門

参加者：大学院生（修士, 医学）

- 令和7年度：2名
- 令和8年度：3名

（備考） 学んだこと・感想 ～実習生のレポートからの抜粋～

- 行政機関においても、放射線に関する専門知識を活かして働くことができることを知り、将来の就職先について新たな視点を得ることができた。
- グループワークでは、自身とは異なる専攻の学生の考え方、物事の見方を体感し、1つの物事を多角的に考えることの重要性を実感した。
- 行政機関の業務の仕組みを学ぶことができた。

特色-2：少人数教育

- 密度の高い教育プログラムの提供
- 個別最適な学習支援

育成人数

実施項目	対象とする人材	各年度に育成する人数					合計
		令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	
ベーシック	大学院生 社会人	-	**15** (5)	**19*** (10)	(15)	(20)	(50)
リスコミ	大学院生 社会人	-	-	**9*** (5)	(10)	(15)	(30)
合　計		-	**15** (5)	**28*** (15)	(25)	(35)	(80)

(): 目標,
赤字: 実績,
*: 見込み

⇩ 目標自体が少なく見えますが-----。

- 本事業では学部生を対象とはしておらず、大学院教育（専門人材育成）として事業を推進することを想定しているため、必然的に母数は小さい。
- 自分の意思でプログラムを選択した者のみをカウント（必修科目の単位を取得すると自動的にカウントするようなことはしない）

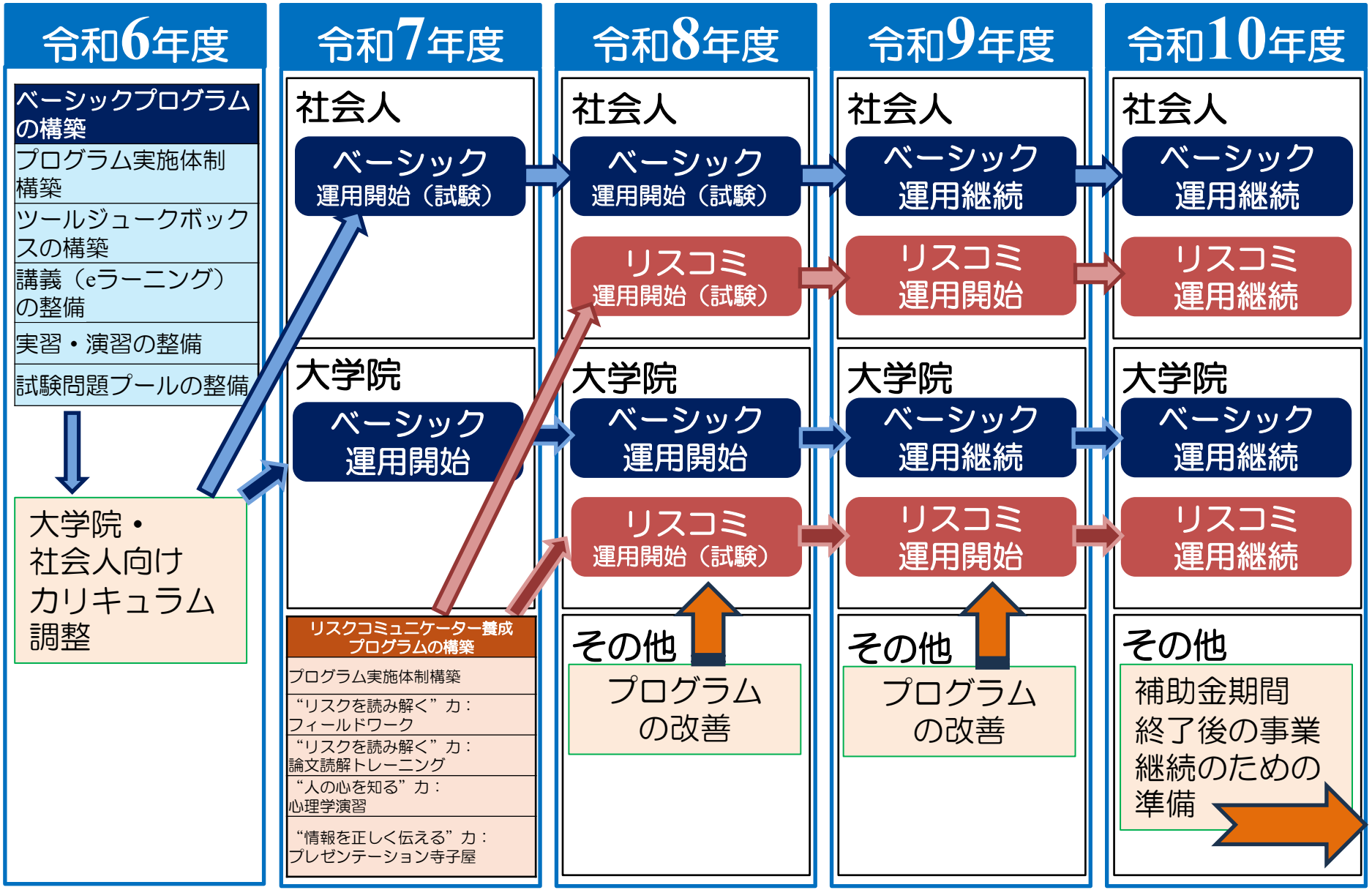
→ 質の高い人材の育成, 即戦力のリスクコミュニケーターを育成

⇩ そうは言っても-----。

- 社会人にも門戸を開く（certificate）
- 上記の人数には入れていないが、eラーニングの一部を大学院全体の共通科目として展開。

今後の展開

スケジュール


令和6年度
ベーシックプログラムの構築
プログラム実施体制構築
ツールジュークボックスの構築
講義（eラーニング）の整備
実習・演習の整備
試験問題プールの整備
大学院・社会人向けカリキュラム調整
令和7年度
社会人
ベーシック 運用開始（試験）
大学院
ベーシック 運用開始
リスクコミュニケーター養成プログラムの構築
プログラム実施体制構築
“リスクを読み解く”力：フィールドワーク
“リスクを読み解く”力：論文読解トレーニング
“人の心を知る”力：心理学演習
“情報を正しく伝える”力：プレゼンテーション寺子屋
令和8年度
社会人
ベーシック 運用開始（試験）
リスコミ 運用開始（試験）
大学院
ベーシック 運用開始
リスコミ 運用開始（試験）
その他
プログラムの改善
令和9年度
社会人
ベーシック 運用継続
リスコミ 運用開始
大学院
ベーシック 運用継続
リスコミ 運用開始
その他
プログラムの改善
令和10年度
社会人
ベーシック 運用継続
リスコミ 運用継続
大学院
ベーシック 運用継続
リスコミ 運用継続
その他
補助金期間終了後の事業継続のための準備

教育プログラムの改善・拡充に向けて

受講生（教育効果の可視化）

- アンケートの収集/分析
- eラーニング視聴データの収集/分析

協力機関・研究者

- 専門分野の最新知見の提供
- 事業推進委員会を通した意見交換

外部評価委員会

- 事業の推進に向けた助言と監督

原子力規制委員会・規制庁

- 情報収集（公開資料の分析）
- 講師派遣、インターンシップ依頼

事業責任者・コアメンバー

ベーシックプログラム：分野拡張とコンテンツの数と質の充実化
→ あらゆる関連分野をカバーする教育プログラムへ

リスクコミュニケーター養成プログラム
① リスクを読み解く力：フィールドワークの拡大（海外調査も視野に）
② 情報を正しく伝える力：英語コースの新設
③ 人の心を知る力：実習の拡大（コミュニケーション実践の場の提供）

成果物について

eラーニングコンテンツ → 全国展開

- 課　題
  - ✓ システムの管理体制の整備
  - ✓ 著作権や外部講師の承諾などの権利関係の整理
  - ✓ 利用方法（サーバー、料金は？）
- 時間・場所を問わず受講可能なeラーニング特有の利点を生かす。

実習・演習
→ 方向性を含めて検討中



まとめ

- 放射線が抱える社会問題の解決を目指す上で「放射線リスクを的確に判断できる力」と「エビデンスに基づいて説明できる力」を合わせた「マルチスケール」を有する人材の育成が重要である。
- 本事業は、1）ベーシックプログラム、2）リスクコミュニケーター養成プログラムの2つの柱から成り立っており、リスクコミュニケーターとして求められる力を包括的に学ぶことができる体制を構築している。
- 総合大学の強みを活かした学内外の強い連携により、ユニークかつ実践的な密度の高い教育を行う。
- 少人数教育で質の高い即戦力となる人材を育成する。